

平成 21 年度

病害虫発生予報第 5 号

平成 21 年 8 月 27 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 今月のトピックス（チャのミカントゲコナジラミについて）	11
6. 気象のデータ	12
7. おしらせ	14

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 普通作物

イネでは、斑点米カメムシ類、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカの発生量はやや少と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量はやや多、ハスモンヨトウの発生量はやや少と予想されます。それぞれ発生状況に注意して防除を行ってください。

2) 果樹

カンキツでは、黒点病、ミカンハダニの発生量は平年並、かいよう病（中晩柑類）、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少、かいよう病（温州みかん）の発生量は少と予想されます。

果樹カメムシ類の発生量は、やや少と予想されますが、カキ園や山間地の樹園地では、発生状況に十分注意してください。

3) 茶

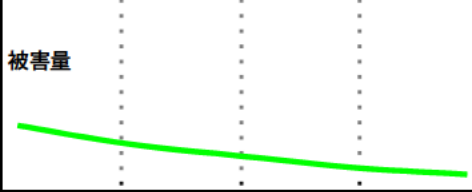
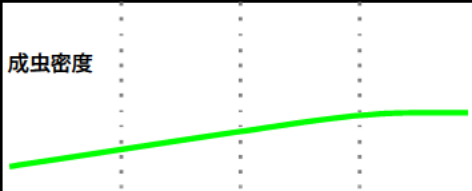
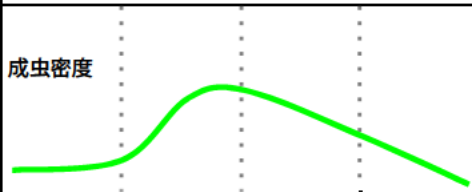
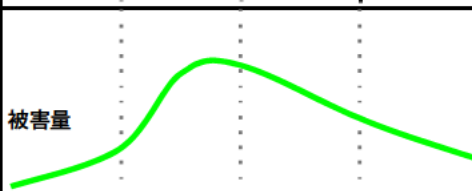
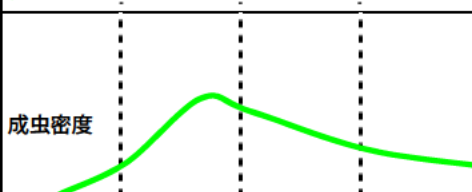
チャでは、チャノホソガの発生時期はやや遅、発生量はやや多と考えられるので、発生状況を見て防除を実施してください。炭疽病、カンザワハダニ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシの発生はやや少と考えられます。

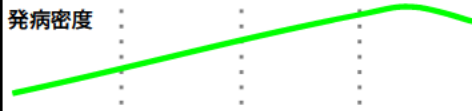
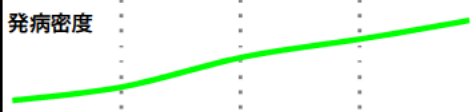

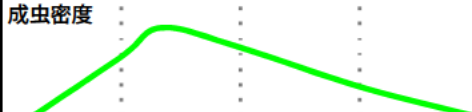
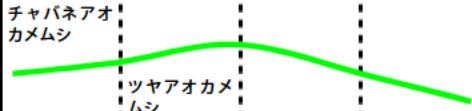
4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。今後の気象の推移に注意し、降雨後の防除に努めてください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は平年並と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		8月	9月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや少	小	普通	被害量				1) 周囲の圃場で稲刈りがあれば、侵入に注意してください。
	ツマグロヨコバイ	—	やや少	中	低	成虫密度				1) 密度が高くないので防除の必要はありません。
	トビイロウンカ	—	やや少	小	低	成虫密度				1) 多飛来が確認されていないので防除の必要はありません。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや少	中	普通	被害量				1) 圃場を見廻り、白変葉をさがしてください。 2) 若齢幼虫期に防除してください。
	吸実性カメムシ類	—	やや多	中	普通	成虫密度				1) 開花終期から莢の伸長期に防除してください。 2) ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ、アオクサカメムシ等が莢を加害します。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	程度		8月	9月				
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	黒点病	—	平年並	中	普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 引き続き枯れ枝等感染源の除去に努めてください。 2) 9月は後期感染の時期なので、感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州少 中晩柑やや少	小 小	低 普通	発病密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 引き続き発病葉、発病果の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	ダニ密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) 急増することがある時期なので、発生状況をよく観察してください。 2) 1葉当たりの雌成虫寄生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。 3) 同一系統の薬剤の連用を避けてください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	中	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> 1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が判り難くなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低	チャバネアオカメムシ ツヤアオカメムシ					<ul style="list-style-type: none"> 1) 飛来が見られない園では、防除の必要はありません。 2) 大雨、強風などの気象の後に、急に園地へ多数飛来することがあります。カキ園や山間地の樹園地では、発生状況に十分に注意してください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		8月	9月			
		平年比			平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通					1) 秋芽開葉期に防除を実施してください。
	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 今年度は春から低密度が続いています。
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや多	小	普通					1) 圃場によって発生時期が異なるので、防除時期に注意してください。
	チャノミドリヒメ ヨコバイ	—	やや少	小	普通					1) 秋芽の開葉初期に防除してください。
	チャノキイロアザ ミウマ	—	やや少	小	普通					1) 秋芽の開葉初期に防除してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月		9月		
						平年比	平年比	程度	平年比	
チャ	クワシロカイガラムシ	—	やや少	小	普通			孵化幼虫密度		<ol style="list-style-type: none"> 第3世代幼虫の発生は、平年で9月下旬～10月上旬です。 第1世代と異なりだらだら発生する傾向なので、発生の多い圃場では孵化状況を確認して防除してください。 株内に噴口を入れるなどして、枝や幹に十分薬液がかかるよう散布してください。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> 露地では降雨で拡大します。降雨後は防除に努めてください。 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにして、畝やベンチの両側からも散布してください。 灌水はやさしく手灌水かチューブ灌水で、茎葉にはねかえらないよう注意してください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	平年並	中	普通	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、発生に注意し若齢幼虫のうちに防除してください。 同一系統薬剤を連用すると、薬剤抵抗性を獲得しやすいため異なる系統薬剤をローテーション散布してください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では(松阪市4月第1半旬~8月第4半旬)では、誘殺数はイネホソミドリカスミカメ 174 頭(平年 46.9 頭)と多、アカスジカスミカメ 60 頭(平年 35.5 頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月上旬)では、圃場すくい取りによる、斑点米カメムシ類成幼虫(中型種)の発生圃場率 26.6 % (平年 29.9 %)とやや少、成幼虫数 0.7 頭(平年 0.8 頭)とやや少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、やや少~やや多(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 巡回調査結果および一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市で9頭(平年 66.4 頭、4月第1半旬~8月第4半旬)と少、伊賀市で99頭(平年 656.2 頭、4月第1半旬~8月第3半旬)と少、紀北町で46頭(平年 10.1 頭、4月第1半旬~8月第3半旬)と多、御浜町で0頭(平年 61.2 頭、4月第1半旬~8月第1半旬)と少の傾向 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月上旬)では、発生圃場率 46.2% (平年 31.3%)と多、払い落とし成虫数 1.0 頭(平年 2.3 頭)と少、同幼虫数 7.7 頭(平年 9.4 頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	トビイロウンカ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯では、誘殺数は松阪市で0頭(平年 3.9 頭、4月第1半旬~8月第4半旬)および伊賀市で0頭(平年 0.5 頭、4月第1半旬~8月第3半旬)とやや少の傾向、紀北町で0頭(平年 0 頭、4月第1半旬~8月第3半旬)および御浜町で0頭(平年 0 頭、4月第1半旬~8月第1半旬)と平年並に少ない傾向 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月上旬)では、発生圃場率 0.6% (平年 0.6%)および払い落とし成虫数 0.01 頭(平年 0.7 頭)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、少~平年並(概して少) (-)</p> <p>4) 九州各県での飛来数は、一部を除き、概して少 (-)</p> <p>考察: 三重県への多飛来はなかったと考えられるので、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ダイズ	ハスモンヨトウ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市・8月第1半旬~第4半旬)では、誘殺数は 290 頭(平年 314.2 頭)とやや少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第1週)では、葉食害度 0% (3年平年 0.1%)と平年並に少ない傾向、1a 当り白変か所数 0 か所(平年 0.7 か所)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、無~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: フェロモントラップ、巡回調査結果および一般圃場の発生状況から、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～8月第3半旬）では、誘殺数はアオクサカメムシ 608 頭（平年 281.5 頭）と多、イチモンジカメムシ 57 頭（平年 38.9 頭）と多、クサギカメムシ 22 頭（平年 120.5 頭）と少（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（8月第1週）では、寄生虫数 0 頭（平年 0.2 頭）とやや少の傾向（-）</p> <p>3) 一般圃場では、無～平年並（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 一般圃場では平年並の発生状況ですが、予察灯での結果を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月21日発表）によると、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 着果過多の影響で、枯れ枝が多い傾向（+）</p> <p>考察： 一般圃場の状況を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	-	温州少 中晩柑 やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月21日発表）によると、降水量は多くない予想（-）</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、発病葉率 6.2%（平年 12.9%）と少の傾向、発病果率 25.8%（平年 39.0%）とやや少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月上旬）では、春葉、果実における発病は温州みかんでは認められず、中晩柑では春葉平均発病度 0.9、果実平均発病度 0.2 とやや少の傾向（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、予想発生量は温州みかんでは少、中晩柑類ではやや少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（8月21日発表）によると、降水量は多くない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、100 葉当寄生虫数は、無防除区で 18.9 頭（平年 24.8 頭）とやや少の傾向、防除区で 130 頭（平年 21.3 頭）と多の傾向（±）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月上旬）では、新葉における平均寄生葉率は 3.2%（平年 5.6%）、1 葉当平均寄生虫数は 0.04 頭（平年 0.13 頭）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並（±）</p> <p>考察： 一般圃場の発生状況と気象要因を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃（8月上旬）では、粘着トラップへの誘殺数は 5.9 頭（平年 19.0 頭）と少の傾向（-）</p> <p>2) 県予察圃（8月中旬）では、100 果あたり寄生虫数は 0.8 頭（平年 35.8 頭）と少の傾向（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（8月上旬）では、被害果率は 3.1%（平年 3.3%）と平年並（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹共通	カメムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:4月1日~8月10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 3,306頭(平年 2,882頭)とやや多の傾向、ツヤアオカメムシ 604頭(平年 2,673頭)と少の傾向 (±)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~8月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 349頭(平年 1,068頭)と少、ツヤアオカメムシ 188頭(平年 209頭)と平年並 (-)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1日~8月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 1,273頭(平 2,655頭)、中間地(津市白山町二本木)で 1,554頭(平年 4,204頭)、平地地(松阪市嬉野川北町)で 56頭(平年 873頭)と少 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(8月第2週)では、圃場への飛来は未確認 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 今後、カキ園や山間地の樹園地等に飛来する可能性はあると考えられますが、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、降水量は多くないと予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃場では、三番茶発病葉数は 0.3枚/m²(平年 2.5枚/m²)と少 (-)</p> <p>3) 巡回圃場(8月上旬)では、発病葉数は 0.8枚/m²(平年 1.4枚/m²)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発病量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 気象要因を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、降水量は多くないと予想 (+)</p> <p>2) 県予察圃(8月中旬)では、寄生葉率は 0%(平年 7.80%)と少の傾向、寄生頭数(卵・幼虫・成虫)は 0.04頭/葉(平年 1.47頭/葉)と少 (-)</p> <p>3) 巡回圃場(8月上旬)では、寄生葉率は 0.2%(平年 1.4%)と少、寄生頭数は 0.001頭/葉(平年 0.42頭/葉)とやや少 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 現在の発生量は少と思われるが気象要因を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャノホソガ (第4世代幼虫)	やや遅	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃では、第3世代の発生ピークは8月第4半旬(平年8月第3半旬)とやや遅(発生時期+)</p> <p>2) フェロモントラップ(7月第6半旬~8月第4半旬)では、誘殺数は、2,629頭(平年 1,844.8頭)と多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月上旬)では、裃調査による巻葉数は 5.3頭/m²(平年 2.3頭/m²)と多 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 第3世代の発生ピークがおそくなっているのを考慮して第4世代のピークはやや遅と考えます。県圃場、巡回圃場の現況発生量は多ですが、一般圃場の発生量を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>	

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノミドリヒメ ヨコバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(6月第6半旬~8月第4半旬)では、粘着吸引トラップ捕殺数は13頭(平年12.2頭)と平年並(±)</p> <p>2) 県予察圃では、二茶被害芽率は1.9%(平年2.3%)とやや少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(8月上旬)では、たたき落とし虫数は0.6頭(平年0.8頭)とやや少(-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少と思われませんが、特に大きな増減の要因がないので予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザ ミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃(8月第2半旬~8月第4半旬)では、粘着吸引トラップ捕殺数は2,224頭(平年2,467.9頭)と平年並み(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月第2週)では、たたき落とし虫数は0.5頭(平年9.1頭)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~並(概してやや少)(-)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少と思われませんが、特に大きな増減の要因がないので予想発生量はやや少と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(8月第2週)では、雌成虫寄生枝率は、2.5%(平年6.8%)と少(-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 現在の発生量はやや少と思われませんが、特に大きな増減の要因がないので予想発生量はやや少と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(8月21日発表)によると、降水量は多くない予想(-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月上旬)では、発病株率は1.2%(平年0.6%)とやや多の傾向(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや多~多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 大きな増加要因がなく、一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 場内フェロモントラップの二化期成虫の誘殺数(7月1半旬~7月6半旬)は53頭(平年28.2頭)と多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(8月上旬)では、被害葉率は0.2%(平年2.1%)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並(±)</p> <p>考察: 現在の発生量は平年並と思われませんが、特に大きな増減の要因がないので予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「チャのミカントゲコナジラミについて」

1) チャの新害虫

県内のチャでミカントゲコナジラミが大発生しています、もともとカンキツにつく害虫でしたが、中国でチャにつく系統が発見され、我国でも近畿地方で見られるようになりました。

2004年 京都府で確認

2006年 滋賀県、奈良県、三重県で確認

2009年 島根県で確認

当初は、チャには被害がないと考えられていましたが、すす病の併発が極めて激しいため、チャの生育が阻害されているようです。また、飛び回っている成虫を吸い込んだりして、収穫作業時に不快感があります。

2) 形態

卵は長く黄色です。幼虫は孵化した直後は歩き回りますが、やがて葉裏に固着して、白く縁取られたツヤのある黒色の小判型になり、4齢幼虫は蛹とも呼ばれます(図1)。成虫の体長は1.3mmほど。施設野菜の害虫である白いタバコナジラミと異なり、灰色をしています(図2)。



図1 卵(a)、幼虫(b)、蛹(c)



図2 成虫

3) 生態

発生は年3~4回です(図3)。第3世代の出る年は10月頃に成虫が見られます。

冬	5月	7月	9月
幼虫・蛹	越冬世代 成虫	第1世代 成虫	第2世代 成虫

図3 発生活長

成虫の寿命は短く、4日程です。群集する性質があり、8月には多いところで1枚の葉裏に卵が200個産まれ、幼虫が100頭もいました。

カンキツの系統とは種が異なるかもしれないと言われているので、チャ以外の加害植物はよくわかっていませんが、ツバキでは確認されています。

4) 防除の考え方

防除適期は使用薬剤の特性によって異なります。適切な時期に、下層の葉の裏に十分懸かるように散布してください。

寄生ハチ(シルベストリコバチ)が定着すると、激発はおさまるようです。他の害虫も含めて、天敵にやさしい防除体系を検討してください。

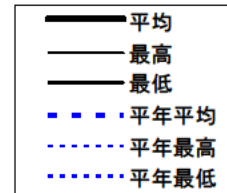
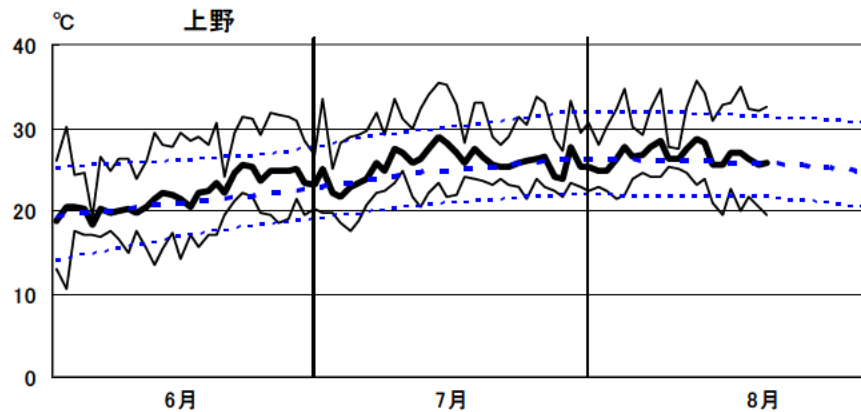
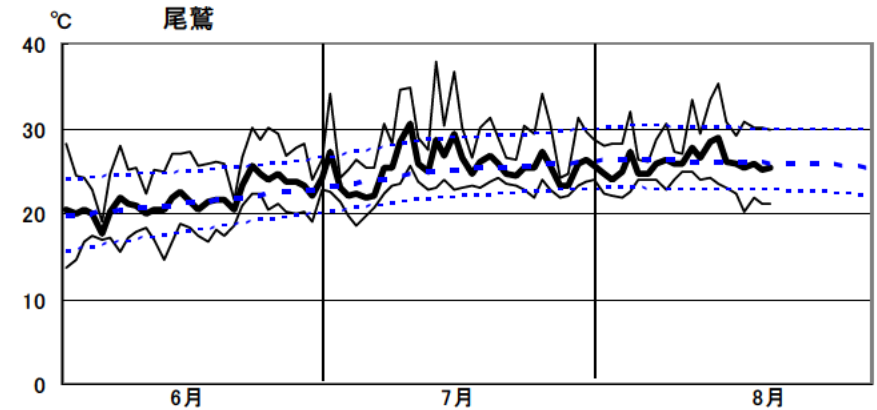
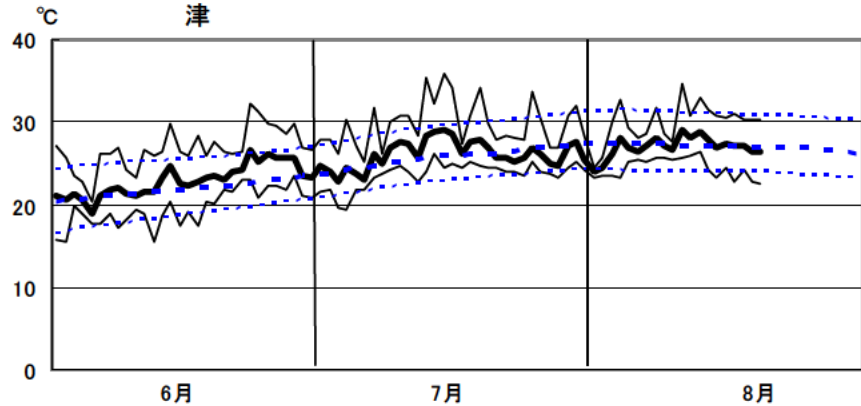
6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 21 年 8 月 21 日 名古屋地方気象台発表)

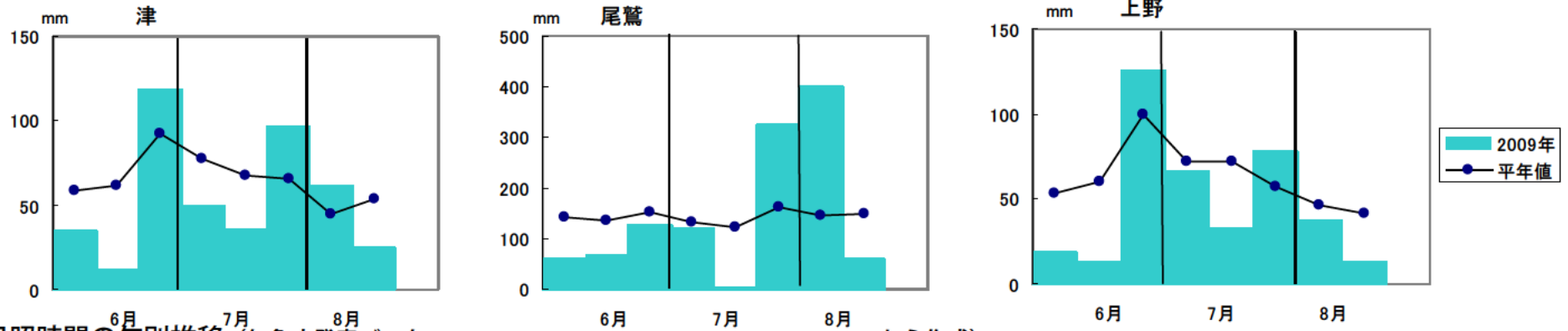
東海地方の向こう 1 か月は、期間の前半は平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。期間の後半は天気は数日の周期で変わる見込みです。

1 週目 (8 月 22 日～28 日)	期間のはじめは前線の影響により雲が広がりやすく雨の降る所がありますが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (8 月 29 日～9 月 4 日)	平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。	同 約 5 日
3～4 週目 (9 月 5 日～18 日)	平年と同様に天気は数日の周期で変わるでしょう。	同 約 7 日

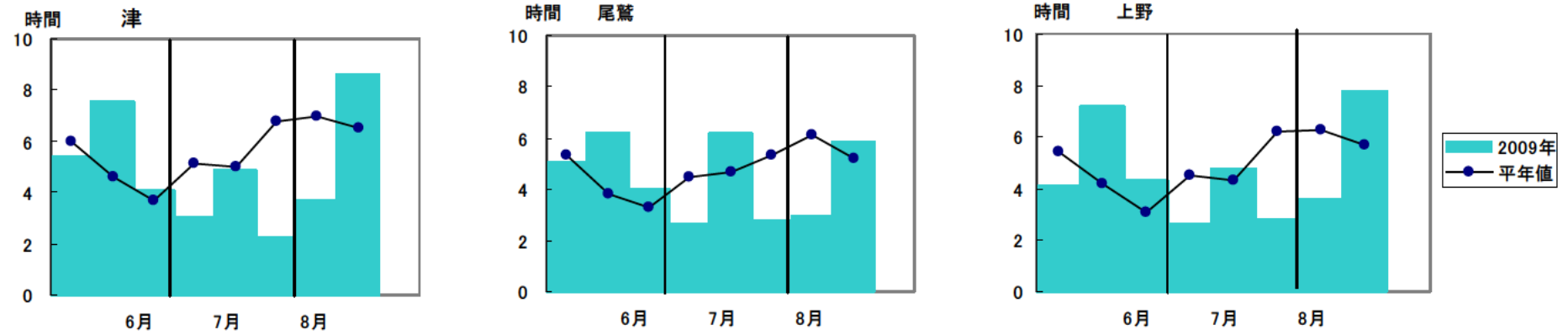
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ (前回と異なる項目にはNEWの印があります)

1) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日(発表済み)	第2回 5月28日(発表済み)
第3回 6月25日(発表済み)	第4回 7月23日(発表済み)
第5回 8月27日(今回)	第6回 10月22日(木)
第7回 3月18日(木)	

2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki_.pdf

4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>